

日本漢方協会通信

27年 2月

国際シンポジウム 桂枝茯苓丸 (加薏苡仁)
慶應義塾大学医学部 漢方医学センター 国際東洋医学会・日本支部 共催
期日: 2015年2月8日(日) 9:00~16:30
場所: 慶應義塾大学病院 11階・大会議室
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
(中央・総武線「信濃町」駅下車、徒歩約1分)

プログラム

開会の辞: 中田敬吾 (国際東洋医学会
会長)

第1部: 桂枝茯苓丸 (加薏苡仁) のエ
ビデンスデータの構築に向けて 9:05
~ 11:35 (1人15分)

座長: 貝沼茂三郎 (九州大学病院・
総合診療科)・加島雅之 (熊本赤十字病
院・内科)

- 1 上腕骨内/外側上顆炎に対する桂枝
茯苓丸の治療効果
演者: 田島康介 (慶応大学医学部
救急医学講座)
- 2 小児科における桂枝茯苓丸の応用
演者: 土方康世 (土方医院)
- 3 桂枝茯苓丸のアトピー性皮膚炎に対
する有効性
演者: 三澤 恵 (富山大学皮膚科)
- 4 尋常性痤瘡に対する桂枝茯苓丸加薏
苡仁の臨床経験
演者: 角田美英 (かくた皮膚科)
- 5 下肢静脈瘤ストリッピング術後の皮
下血腫に対する桂枝茯苓丸の効果に
ついて
演者: 小池 洋介 (長野県立須坂
病院)
- 6 精索静脈瘤に伴う慢性陰嚢痛に対する
桂枝茯苓丸の臨床的検討
演者: 鶴木勉 (東京蒲田医療セン
ター・泌尿器科)
- 7 子宮筋腫・子宮腺筋症に対する桂枝
茯苓丸の効果
演者: 山本嘉一郎 (近畿大学医学
部堺病院・産婦人科)
- 8 Effects of the Kampo medication
keishibukuryogan on blood
pressure in perimenopausal and

postmenopausal women

演者: 寺内公一 (東京医科歯科大
学・女性健康医学講座)

9. Efficacy of keishibukuryogan, a
traditonal Japanese herbal
medicine, in treating cold
sensation and numbness after
stroke: clinical improvement and
skin temperature normlization.
Neurologia Medico-Chirurgica

演者: Cho Ki-Ho 曹 基湖 (慶熙
大学 韓医学部)

- 10 更年期障害に対する漢方治療の有用
性の検討・桂枝茯苓丸を主として
演者: 高松 潔 (東京医科歯科大
学市川総合病院・産婦人科)

第2部: 教育講演・末梢循環改善剤と
しての桂枝茯苓丸 11:40~12:10

座長: 安井廣迪 (安井医院)

演者: 井齋偉矢 (静仁会静内病院)

第3部: 特別講演1・桂枝茯苓丸に関
する諸研究の総括 13:10~14:05

座長: 長坂和彦 (諏訪中央病院)

演者: 引網宏彰 (富山大学和漢診療
学講座)

第4部: 特別講演2・一般薬用漢方処
方としての桂枝茯苓丸 (加薏苡仁)

14:10~14:40

座長: 安井廣迪 (安井医院)

演者: 三上正利 (日本薬剤師会薬局
製剤漢方委員会/日本漢方協会/
ミカミ薬局)

第5部: 桂枝茯苓丸 (加薏苡仁) に関
する諸研究およびベストケーススタ
ディ 14:40~16:00(1人12分)

座長: 元雄良治 (金沢医科大学・腫
瘍内科学)

- 1 下肢筋損傷に対する漢方治療 (桂枝

茯苓丸)の有効性および初診時MRI所見による治療経過予測の考察

演者：八代 忍 (大田原中央クリニック)

2.糖尿病性足壊疽と桂枝茯苓丸大量投与

演者：矢野博美 (飯塚病院・漢方診療科)

3.良性の乳房疾患の乳房痛に桂枝茯苓丸が著効した4例

演者：小山寿雄 (小山クリニック)

4.混合性結合組織病に桂枝茯苓丸が有効であった1例

演者：大野修嗣 (大野クリニック)

5.口腔内のびらん桂枝茯苓丸が奏効した一例

演者：村井政史 (北海道漢方医学センター附属 北大前クリニック)

6.台湾における桂枝茯苓丸の経験 (仮)

演者：莊 明仁 (台湾台中市・瑞聯中医診所)

特別討論 (20分)・海外における桂枝茯苓丸 (加薏苡仁) 16:05～16:25

座長：大野修嗣 (大野クリニック)・安井廣迪 (安井医院)

1. 韓国：Cho Ki-Ho 曹 基湖 (慶熙大学・韓医学部)

2. 台湾：莊 明仁 (瑞聯中医診所)

3. シンガポール：渡邊勇 (Raffles Chinese Medicine)

総合討論 (20分) 16:25～16:45

総合司会：大野修嗣 (大野クリニック)・安井廣迪 (安井医院)

「新一般用漢方製剤としての桂枝茯苓丸」

三上正利

日本薬剤師会薬局製剤漢方委員会

日本漢方協会副会長

明治7年に医制が發布され、漢方治療が正統医学から排除された。その中で、漢方を愛する人々は、漢方を正式の医療として復活しようとしてきた。日本薬学会では、次期局方収載品目選定の意味もあって、「日本準薬局方」(昭和8年)を作っていた。その第3改訂(昭和

16年)に「漢方処方」の部ができ、漢方処方246が収載された。半公的書ではあるが、漢方薬が初めて収載されたものと言える。編纂主査委員であり、局方の委員でもあった、清水藤太郎先生の力がおおきいと思われる。清水藤太郎先生は医界之鉄椎(和田啓十郎1872～1916)に感銘して漢方臨床家として活躍した湯本求真の弟子であり、皇漢医学の索引を1963年に完成させている。また大塚敬節・矢数道明先生等と「漢方診療の実際」1941年「漢方診療医典」1969年を共著している。

漢方処方が公定書として収載されたのは1948年の国民医薬品集でその時は黄疸散というように効能分類で4処方が収載されていた。国民医薬品集の1955年の改訂時から薬方名記載となった。それはそのまま、第7日本薬局方2部に組み込まれた。桂枝茯苓丸が公的なものに収載されたのは1958年の「薬局製剤指針(厚生省)」からであった。昭和46-49年の一般用漢方製剤製造承認申請内規ができ、その改訂が、平成21-24年に行われ一般用漢方製剤製造承認基準になった。平成14年の一般用医薬品の承認審査合理化委員会の中間報告で一般用漢方製剤に①210処方の拡大と整理 ②しぼり ③ハーブ・民間薬にもしぼり ④剤形の検討 ⑤生活者に理解できる表現でという指摘をしている。それを受けて、合田幸広国立医薬品食品衛生試験所・生薬部長が主任となり、今回の改訂となった。医薬品のリスク分類、登録販売者制度、薬事法から「医薬品医療機器等の品質・有効性及び安全性確保に関する法律」になり、医薬品の安全性と最新の薬学的知見に基づいた指導に重点が置かれている。厚生労働科学研究費「漢方薬の安全性確保に関する研究」(合田幸広主任)が漢方薬の確認票を作成している。その基礎は「医薬品の添付文書」で、生活者にってもらえないものを、理解しやすい票にしている。今後の一般用漢方製剤全体に拡大されることが望まれる。